

教育現場から考える市民力

ながれ

浜野 さやか (はまの さやか / 高等学校教員)

1、教育現場の現状

高校で家庭科という教科を教えて約 25 年になります。家庭科は、生物、化学、歴史、地理、経済など多くの教科の知識を生活の視点から考える教科で、生活に関する知識を学ぶだけでなく、生活の中で問題点を見つけ、それを改善していくための方法を考え実践することが重要になります。

今年はコロナの影響で、学校現場も大きく影響を受けています。教室で対面授業を行うことができなかつた数ヶ月、私の勤務する私立高校では、オンライン授業を毎日の時間割通りに行いました。双方向の授業ではなく、オンライン上で課題を出し、時間内にその課題を仕上げ、オンライン上で提出という流れです。自粛期間中、生徒は自宅にいたので、各自の生活を改めて振り返ってみることをメインに課題を作りました。コロナ以前は、ともすればこちらからの一方的な授業になりがちだったのが、オンライン授業になり、写真を撮ったり調べ物をしたりと、能動的に取り組む課題が増え、自分のペースで積極的に課題に取り組めたという好意的な意見が多く、こちらとしてもほっとしました。

オンライン授業を行う上で、特に気を付けたことは、①できるだけ速やかに提出された課題にコメントを書き返却すること、②クラスメイトに会えない状況でも、お互いの意見を共有でき、自分一人ではないということを確認できる環境を提供することの2点です。自宅でのオンライン授業が始まった頃は、生徒、教員ともに緊張感や不安がありました。しかし、課題内容を工夫したり、返却時にいつもより少しオーバーにコメントしてみたり、提出された課題を

オンライン上でクラスメイト同士が閲覧できるようにするなど試行錯誤を続け、少しずつ信頼関係を築くことができたと思っています。

授業をする上で、お互いの信頼関係は必須です。信頼関係を作るためには、コミュニケーションが欠かせません。簡単なコメントでもそれがあるだけで、次の向こうからのコメントが違ってきます。それに対してまたさらにコメントを重ねていくと、積み重ねができて、良好な関係で次のステップに進めます。

7月に入りやっと対面授業が始まり、やれやれと思う反面、マスクで顔を覆っていることで表情が読み取れないことに想像以上のやりにくさを感じていますが、オンライン授業での経験を活かし、より良い授業を展開できればと思っています。

2、大人世代に足りないもの

生徒には、大人になっても、自分で情報収集をし、考えて行動できるようになってほしいと伝えています。自分の生活の問題点を見つけ、改善案を考え実践していこうと。私も今まで数十年にわたって、自分なりに情報を集め、考え、できる範囲で行動に移してきたつもりです。しかし結果として、そのやり方だけでは何も変化を起こすことはできなかったのではないかと考えています。社会環境、自然環境の変化は想像以上に急激でした。高校生と話していると「今まで大人は何をしてきたの?」「この状況を若い世代に丸投げするつもり?」というような反応があることがあります。私たちの世代に足りなかったもの、次の世代に必要なものは何なのだろう。自分ので

きる範囲で生活を改善していただくだけでは、社会を変えられないのであれば、周囲の人たちと協働する力をつけることで、個人の変化が増幅して広がる可能性があるのではないかと。協働に必要なコミュニケーションスキルを、一部の人だけでなく、今を生きるすべての人の必須のスキルとして、学校教育の中で学ぶ機会を作ることが大切なのではないかと思うようになっていきます。

3、コミュニケーションスキル

授業のグループワークでも、地域の身近な問題解決の場でも、話し合いをスムーズにするためのスキルがあると思います。友達をたくさん作って、みんなと仲良くするための社交性ではなく、課題解決のために議論のテーブルについて、スムーズに議論に参加するために必要なスキルです。それを誰もが使える方法として身につけるには、状況に応じて方法を変えてみたり、繰り返し訓練し、たくさん経験を積むことが大切だと思います。身構えないで、だれでも議論に参加できるように全員が慣れるということです。もちろん、人には得手不得手があります。全員が政治に絡むような議論ができる必要はありませんが、ママ友同士で子育ての助け合いをする時、家族の介護を話し合う場、仕事上の話し合いなど、それぞれの置かれた状況で、多くの人々が問題解決のための話し合いをスムーズにできるスキルがあれば、協働が生まれやすくなり、社会の何かが変わっていくきっかけになるのではないかと思うのです。そのためにも、授業の中で問題について個人で考え、グループで考えを発表して共有、個人で考えをまとめるといったような作業の繰り返しが必要になると考えています。

4、情報収集スキル

新聞を一人に一冊配布して、各自が配られた新聞から、生活に関する興味のある記事を

探して要約し、グループ内で発表をするという授業をすることがありました。1時間、新聞を自由に読んでもらうのが一番の目的でしたが、生徒たちはこちらが思っていたよりも楽しそうに作業をしていました。「普段は新聞を読まないのが良い経験になった。」「知らないことばかりが書いてあり、驚いた」など、興味を持ったという感想が多くありました。

今の高校生のお多くは、日常的に新聞を読む習慣は少なく、日々のニュースはスマホのネットニュースでチェックしていると言います。もうテレビニュースでもありません。ネットニュースは、その人の興味のある分野に偏ってニュースが送られてきます。検索の少ない分野の関連ニュースは送られてきません。気が付いていないだけで、生徒が持っている情報は驚くほど偏っていると思います。また、その送られてくる情報を批判的に受け止める必要性についても、しっかりと伝えていく必要があります。新聞の読み比べをし発表しあうことで、同じ事件や出来事でも、新聞社や記者によって意見の違いがあることがわかります。世界中の有益な情報も簡単に手に入る時代ですが、そのリスクについても改めて学んでおかなければならないと思います。

5、最後に

今の高校生たちは物心ついた時からボランティアや地域社会活動に参加することを勧められ、実践してきた世代です。彼らには、様々な種としてこの社会に落ち、あちこちで花を咲かせてほしい。それが集まったら大きな花畑になる。そして種が発芽するために必要な良い土や水を用意して待つのは大人の仕事です。年を重ね失敗も含めた経験を積み重ねてきた私たち大人にも、ただ、日々を何となく過ごすのではなく、いろいろな学びが必要だと思います。人生100年時代、私もまだまだこれからです。高校生と一緒に試行錯誤の毎日が待っています。